

茶話

SAWA

日本茶インストラクター協会
熊本県支部会報
平成17年4月15発行
創刊号

支部長に藤原徳門氏

副支部長は杉本隆之氏を選出
事務局は坂本孝義氏が再選



三月五日、熊本市の県民交流館「パレア」に於いて、県農政部農産課主幹、県農業研究センター茶業研究所長を来賓に迎え、インストラクター20名、アドバイザー10名、合計30名の支部会員が出席して、熊本県支部総会を開催しました。当日は季節外れの



写真は総会の一場面(正面は有働前会長)

小雪の舞う寒い日でしたが、会場は十七年度も活気ある活動しようという熱気にあふれていました。

総会は、役員改選や規約の一部改正を含む第一号議案から六号議案までを審議、全ての議案が拍手によって承認され、今年度の事業がスタートすることになりました。

役員改選は、事前に行われた信任投票により信任されておりました支部長、藤原徳門氏と副支部長、杉本隆之氏が満場の拍手で紹介された後、6名の理事と2名の監事、事務局が承認されました。各役員は次のとおりです(敬称略)。
理事：市川辰太(普及啓発担当)、堀野裕一朗(研修担当)、市来眞(アドバイザー担当)、八千代洋子(女性部担当)、猪

原真滋(広報担当)、坂本孝義(総務担当)
監事：有働栄一、立山茂
事務局：坂本孝義

宝塚各組で活動計画

総会に先駆けて、昨年度から始まった支部活動についてのワークショップを行いました。宝塚歌劇団の名称に因み、支部会員を星組、月組、花組、雪組、宙組に組分けし、それぞれで「スキルアップ」と「日本茶の普及活動」をテーマに話し合い、活動計画をまとめました。組分けと活動計画は下表のとおりです。

〈新支部長挨拶〉

藤原徳門

県支部長を引き受けることになりました藤原です。前役員の方々、お疲れ様でした。私如きが支部長を任せられ、「この先、本当に大丈夫かなあ」と不安で一杯です。私は、基本的にはインストラクターもアドバイザーも一緒に講座や研修を和気藹々とやっていくのが好きなのですが、それぞれに事情等ありますので、班ごとに活動するのもよし、枠にとらわれず顔を出すのもよし、とにかく「あ、楽しかったね」となれば最高です。欲を言えば、日本茶の素晴らしさを多くの人々に理解して貰えればいいですね。一緒に頑張りましょう。

組	会員名(はグループリーダー)	スキルアップ(実施予定時期)	普及(実施予定時期)
星組	山田繁、有働、江藤、沖田、狩集、高島、立山、田中、寺本	茶園と製造の研修セミナー(10月頃)	
月組	星子、緒方、切通、城、川上、富田、西澤、野田、古田、山崎	茶の鑑定技術向上研修(11月頃)	上質茶の日本茶講座(10月下旬)
花組	猿渡、市川、岩永、内田、江越、黒田、下鶴、藤本、松本	釜炒り茶の手炒り研修会	玉名市高瀬蔵でお茶講座(第4土曜日)
雪組	野村、岩本、下田、中村、堀野、森山、八千代、ハツ波、芳田	ペットボトル茶工場見学(翌年2月) ティーパーティの開き方 茶鑑定技術向上研修(二次対策研修)	
宙組	立山茂、市来、猪原、尾方、斉藤、高山、宮坂、宮本、山田耕	インストラクション研修(他組活動と併行実施)	日本茶アドバイザー入門講座(秋頃)

「茶話」創刊にあたって
事務局 坂本孝義
画像は私が考案したDIXY(ニバーサルデザイン)急須です。握力の弱い方でも使いやすいように持ち手や蓋のつまみを工夫したほか、傾けても蓋が落ちないようにしています。でも、実際に使ってみるとバランスが悪かったりして・・・。



さて、インストラクターやアドバイザーの使命は、お茶で地域社会へ貢献すること、それは何も茶講座を行うことばかりではありません。多くの方がお茶に親しめる機会をつくることであり、それには色々な手法が考えられます。支部活動はスキルアップや、会員相互の情報交換を促進することが目的です。知識や技術は人のために使って初めて活かされるもの、支部活動に積極的に参加いただき、あなたの活動を考えていただきたいと思っています。

インスタト豆知識

ポットのお湯って本当に熱いのだろう

今回は「ポット」。ポットも色々ありますが、湯を沸かして保温するタイプ以外は、沸かしたものをポットに入れ、無くなるまで使うのが通常。そのため家庭によってポットのお湯の温度が一定しているとは限りません。朝食前に沸かしたお湯を、お昼まで使われるお宅もあるでしょう、「ご家族皆お勤めのお宅では朝の湯を夕食のときに沸かし直される家庭だってあるでしょう。生活スタイルやポットの種類、湯をお使いになる頻度によっても違います。でも、日本茶講座の場面で「お茶の入れ方」を話す際には、沸かしたての湯は必ず100度です。ポットには沸かしたて

の湯が入っている事を前提としてしか、お話出来ません。では、説明する根拠としてどのように考えるとよいか？ 次の事を参考にされてはいかがでしょうか。はじめに思い当たるのが、温度計で湯の温度を測って入れるというものでしょう。次に、沸かしたてのお湯を準備しておいて、急須や湯冷ましなどを使って適温まで(新しい器に移し変えるたびに5〜10度温度が下がることを考慮して)下げるのもよいでしょう。でも、「家庭にあるポットで入れる場合は、中に入っている湯を何時沸かしたかが大事になってきます。もっとも、ポットの材質(魔法瓶かステンレスなど)やポットを置いてある部屋の温度(夏場冬場でも変わりますが)で大きく変わってきます。目安としては、室温20

の部屋に魔法瓶式のポットで100度に沸騰させたお湯を入

究極の省エネはなんと「魔法ビン風呂」!

「魔法ビンはお茶を飲むときに使っていた懐かしいポットのことでしょう?とお考えになるのはあなただけではありません。でも、魔法瓶はお湯が冷めにくい事はご存知。その魔法ビンがでっかいお風呂になったと想像して頂くと解り易いでしょう。要は浴槽から風呂のフタまで全部断熱材で作ったという訳です。魔法ビン浴槽を作ったTOTOによりますと湯を沸かして3時間経つても、2、3しか温度は下がらないらしく、年間五千円から一百万円の燃料費の節約になるそうです。今年のポット商品になりそうな売上だそうですね。

れた場合、一時間以上経過すると90〜85度まで温度が下がり、一時間を経過すると75度まで下がるようです。これも一概には言えませんが、これをひとつの目安と考えた説明はいかがでしょうか。すると大体ポットのお湯が今何度くらいになっているのか解るのではないのでしょうか。まあ、試しに実験してみられるのも良いでしょう。

このコーナーでは、皆さんからのご質問やご意見、投稿をお待ちしております。投稿は、事務局坂本宛お願ひします。

(活動報告)

初のアドバイザーの集い開催

理事 市来 眞

三月九日、熊本市内において日本茶アドバイザー会議をアド7名、支部長、副支部長、事務局、それに新人インスト田中さんの計11名で行いました。自己紹介から始まった会も次第に和み、いろんな話題が飛び交いました。

中でもアドバイザーになる動機では、身近なお茶屋さんとの出会いや、新聞の記事、友達からの誘いなど様々。でも共通しているのは「お茶が好き」という事でしょう。活動に参加して楽しかった、さ

らに興味が増した等の声も聞けました。日本茶アドバイザーといっても異業種の集まりですので、各々の業種に於けるいろんな知識を学ぶ事もでき、意義深い会合となりました。これから沢山の事業が企画されています。今回参加出来なかった皆さんも、出来る事業から参加して、各自の素敵な持ち味を活用できる喜びを実感して頂けたらと思います。



会員短信

次期支部長に期待

前支部長 有働 栄一

藤原新支部長、就任おめでとうございます!

何時かは受けなければならぬから、とお考えだったかも知れませんが、時期的にも、とてもいい時期に支部長になられたと思います。熊本県支部は今から成長する子供のよ

うなものです。色々な可能性にあふれていますし、のしかかるような重い伝統は皆無です。藤原支部長がのびのびと楽しく会を運営されれば、それがそのまま会の良き伝統になります。その意味でも適任の支部長を迎えたとの思いを強くしています。

今年度活動について

前副支部長 立山 茂

今年度ワークショップの活動内容を聞きながら、去年よりも一歩踏み込んだ内容に、よく一年でここまでレベルアップしたものだと感じました。女性部のヤル気も頼もしい限りです。アドバイザーの参加も、私の知る限り全国一だと思えます。新支部長をはじめ執行部もそれぞれの部所で活動に取り掛かっておられる事が、更なる期待を抱かせます。今までにない新しい活動成果を期待します。

《編集後記》

試作のつもりで会報を作成してみました。感想、ご意見をお待ちしております。でも、苦情は受け付けません。あしからず。「豆知識」は、皆さんの感じた事、疑問を取り上げます。何かありますか? あつたら教えてください。ネタが底つくかも... この会報は、ネタがあれば作りますので、不定期です。つまり次回は... 未定です。